



本日は生活発表会のためにお集まりいただきまして、ありがとうございます。今年度は第50回という大きな節目の生活発表会です。本日開催できますこと、ここまで続けてこれたという事は、保育や運営について保護者の皆様の多大なるご理解とご協力をいただいたことです。心より感謝し、お礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、子どもたちと生活発表会で何ができるかを探りながらのひと月でした。この状況だからできないではなく、この状況だからそこできていることに視点を置き、各年齢に即した取り組みをしてきました。いつも大切にしている選びから始め、取り組んでいることへの心配や不安が大丈夫になるように活動を繰り返し、よくわかって面白くなった、もっと良くしていこうと活動を展開していきました。

劇 A・B・C組は、まず、出る劇を選びました。全園児役柄を選びました。
 D組 先生の声を良く聞いて表現していきます。
 C組 音楽劇のCDに合わせて、先生のまねっこをしながら覚えた動きを披露します。
 B組 音楽劇のCDに合わせて、自分たちで考えた動きで劇を作っていました。
 A組 台詞を言いながら演じることを、マイクの前でセリフを言う人と舞台上でその台詞に合わせて演じる人に分け、息を合わせながら劇を進めていくことにチャレンジしました。全員が入れ替わりながらどちらの役割もします。
 今日選んだマラカスを手にして演奏
 D組 3つの楽器
 C組 3つの楽器
 B組 6つの楽器
 A組 9つの楽器
 合唱 1曲ずつ違う楽器で演奏
 歌を覚え、録音をして、その歌声に合わせて手遊びや手話をします。

～D組～

合奏・表現あそび 「てくてく あるいてきて……」

音楽の活動で、ピアノの音（リズム）を聞いて体を動かしたり、マラカスを奏でたりしてきました。中でも、動物の表現が大好きで、子どもたちが好きな動物の表現を取り入れました。先生の言葉とピアノの音をよく聞いて表現する子どもたちの姿をお楽しみください。

～C組～

1、合奏 「きのいいあひる」「しろくまのジェンガ」

すずとタンバリンとカスタネットのリズム打ちを楽しんで活動してきた子どもたち、音を出すことより、音を止める方が難しいときもあります。選んだ楽器を手にして、よく指揮を見て合奏をします。

2、劇 「てぶくる」

おじさんが手袋を一つ落しました。そこへ、いろいろな動物が次々に手袋を見つけて入っていききました。自分で選んだ動物のお面を作りました。その動物になりきって、かわいく踊りながら手袋に入っていきます。最後はみんなで暖かくなった手袋に入って、仲良く終わります。

劇 「3びきのこぶた」

3匹のこぶたがそれぞれの家を作ります。そこにオオカミがやってきて家を吹き飛ばそうとします。こぶたやおオオカミ、お互いになりきって体いっぱい使って表現します。最後はおオオカミさんも誘って仲良くみんなでレンガのお家で暮らします。

3、手遊び「大きな畑」「大きくなったら」

『大きな畑』は畑を耕して花や野菜を作る歌です。手を大きく使って表現します。
 『大きくなったら』は指を動かしながら、いろいろなお仕事を表現します。

～B組～

1、合奏 「うちゅうせんのうた」「南の島のハメハメハ大王」

B組になり、楽器の数が増えました。自分の楽器のリズムを覚えて、練習をしてきました。ほかの楽器と音を合わせる楽しさを感じながらも、他の楽器の音につられ少し難しさも感じている子どもたちです。指揮者をよく見て、ピアノの音をよく聞いて、合奏をします。

2、劇 「こびととくつや」

働きもののくつやさんが、ある日、くつの材料をおいたまま眠ると、朝にはくつができあがっていました。夜見てみると、小人が作ってくれています。自分の場面の曲や歌詞を聞いて、「こんなのがいいんじゃない?」「こっちのほうがいいよ」と決めていった振り付けです。

劇 「グリーンマンのピーマンマン」

子どもたちに嫌われもののピーマンですが、バイキンが子どもたちを襲おうとした時、グリーンマンのピーマンマンがきて大活躍します。「どんな振り付けがいいか、考えてきてね」というと、次の日には「先生、こんなのはどう?」「この振り付けにしよう」と子どもたちが考えて決まった振り付け

3、手遊び「アルプス一万尺」「カレーライス之歌」

アルプス一万尺は、本来は2人でする手遊びですが、1人でする。お家ではお父さん、お母さんと一緒にしてみてください。カレーライスのは、みんなの大好きなカレーライスの材料がわかり、作り方までわかります。元気いっぱい手遊びをする子どもたちです。

～A組～

1、合奏 「星に願いを」「天国と地獄」

『星に願いを』は、それぞれの楽器のきれいな音を聴きながら、合奏をします。
 『天国と地獄』は、それぞれのパートで、リズムが違います。自分たちで考えてピアノに合わせて音をだすA組さんたち。どちらかの曲で必ず木琴をします。

2、劇 「大工とおにろく」

何度橋をかけてもすぐに流されてしまう流れの速い川があり、村の人たちは困っていました。そこで大工が橋を架けようとするのですが、川に住む鬼があらわれて、大工の目玉と引き換えに橋をかけてやると言います。村人のためにと大工は鬼と約束を交わします。子どもたちは、言葉のやり取りや動作を自分たちで考え息を合わせながら練習してきました。

劇 「かさじぞう」

明るなお正月を迎えるにあたり、町に傘を売りに出かけたおじいさんですが、思うように傘は売れません。帰る途中に、雪にまみれたお地蔵様を見かけ、やさしい心で傘をかけます。おじいさんの温かい心がお地蔵様に届きます。子どもたちも優しい気持ちをたくさん感じて練習していました。

劇 「泣いた赤鬼」

人間と仲良くなりたいあかおに。大好きなあかおにが幸せになってほしいために、自分は悪者になるあおに。相手のことを思う気持ちがたくさんつまったお話です。劇の練習中に大きな声のでるようになった友だちに「すこいね」と拍手を送ったり、「きこりさんのように動くところを頑張る」と友だちの良いところをたくさん見つけることができる子どもたちの『泣いた赤鬼』です。

3、手話 「ともだちになるために」「にじ」

感染症拡大防止のために声を出せない毎日を過ごしていますが、A組には声の代わりに手で思いや考えや気持ちを伝えることができる手話を紹介しました。
 『ともだちになるために』は、友だちのことを思いながら歌います。

